

福島第一原子力発電所の状況

2015年6月24日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (6/24 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	24.0 °C	1.0 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.2 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h	30.4 °C	5.18 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.3 m ³ /h	27.6 °C	0.25 kPa g	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%

<2. 使用済燃料プールの状況> (6/24 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	25.1 °C
3号機	循環冷却システム	停止中	22.8 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	21.4 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

* 循環冷却システム停止中のため、至近のデータ(6/21 11:00 現在)を記載。

【3号機】・2015/6/21 13:38～ 使用済燃料プール(以下「SFP」という)代替冷却系については、一次冷却系の弁点検作業のため、システムの冷却を停止(停止時間は約 223 時間:6/30 までを予定)。SFP水温度は、6/19 16:00 現在で 22.9°Cであり、SFP代替冷却系停止時のSFP水温度上昇率は 0.103°C/h、停止中のSFP水温度上昇は最大で約 23.0°Cと評価しており、運転上の制限値 65°Cに対して余裕があることから、SFP水温度の管理上問題ない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	6/21 10:25 ～ 移送実施中

【3号機】・廃棄物地下貯蔵設備建屋(以下、「FSTR建屋」という。)の滞留水は2015/5/25より3号機廃棄物処理建屋へ適宜移送中(お知らせ済み)だが、6/18 の移送作業時、FSTR建屋に設置している廃スラッジ貯蔵タンク(A)*の側板の一部に変形(歪み)があることを確認。このため、6/22 にタンク内部について確認したところ、タンク内面が六角形状に変形していることを確認。

※廃スラッジ貯蔵タンク(A)の内容物：SFP冷却浄化系ろ過脱塩器、廃液ろ過器、床ドレンろ過器の使用済樹脂(廃スラッジ)また、廃スラッジ貯蔵タンク(A)および(B)エリアの滞留水の分析を実施したところ、コバルト 60 が過去の分析結果より上昇していることが確認されたため、廃スラッジ貯蔵タンク(A)内部水が漏れ出している可能性がある。廃スラッジ貯蔵タンク(A)内部水、廃スラッジ貯蔵タンク(A)および(B)エリア滞留水の分析結果(コバルト 60)は、以下の通り(6/22 採取)。

【コバルト 60】

廃スラッジ貯蔵タンク(A)内部水 : 6.0×10⁴Bq/L

廃スラッジ貯蔵タンク(A)エリア滞留水(下部) : 1.7×10⁴Bq/L

廃スラッジ貯蔵タンク(B)エリア滞留水(下部) : 1.6×10⁴Bq/L

<参考> (2/5 採取)

廃スラッジ貯蔵タンク(A)エリア滞留水 : 3.1×10³Bq/L

廃スラッジ貯蔵タンク(B)エリア滞留水 : 2.6×10³Bq/L

なお、6/22(12 時頃)のFSTR建屋水位は O.P.2,751mm であり、6/22(12 時頃)の近傍サブドレン水位(N9):

O.P.7,522mm、N10:O.P.8,275mm)より低いことから、FSTR建屋外への流出はないと判断。
 また、FSTR建屋に設置している廃スラッジ貯蔵タンク(B)および原子炉冷却材浄化系廃樹脂貯蔵タンクについては、異常がないことを確認。
 今後、廃スラッジ貯蔵タンク(A)が変形した原因の調査および対応方針について検討していく。
 FSTR建屋近傍のサブドレン水(N9、N10)の分析結果(採取日:6/23)

【コバルト 60】

サブドレン水(N9) : 検出限界値(6.2 Bq/L)未満

サブドレン水(N10) : 検出限界値(7.6 Bq/L)未満

この分析結果から、サブドレン水(N9、N10)のコバルト 60 濃度は、ともに検出限界値未満であるため、FSTR建屋から同建屋外への滞留水の流出はないものと判断。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/24 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)	増設多核種除去設備	高性能多核種除去設備
運転状況	運転中*1	運転中*1	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- 2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽(フランジ型タンク)の解体作業を開始。
- 2015/6/23 構内排水路の定例分析について、6/16、6/17のC排水路35m盤での採取が採水器の不具合により水の採取が出来なかった。6/18に採水器を補修し、当該排水路の水を採取して分析したところ、トリチウム濃度が、前日(6/10採取)の検出限界値(9.1Bq/L)未満に対して、6/18の分析では2,500Bq/Lと上昇していることを確認した。
 なお、C排水路35m盤採取箇所の約5m下流側に設置している構内側溝排水放射線モニタ近傍のトリチウム濃度の分析結果については、6/18採取分で、検出限界値(2.7Bq/L)未満、6/19採取分で、4.7Bq/Lと有意な上昇はないことから、今後、分析の過程における放射性物質の混入の可能性も含めて、トリチウム濃度上昇の原因を調査していく。今回のトリチウム濃度上昇については、東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度以下の値であることを確認。
- 2015/6/24 9:48～14:28 5号機使用済燃料プール冷却浄化系について、計測用電源の切替操作を行うため停止。起動後の運転状態に異常なし。使用済燃料プール水温度は冷却停止時の22.6℃から23.1℃まで上昇したが、運転上の制限値65℃に対して余裕があり、プール水温度の管理上問題ない。
- 2015/6/25 側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて、漏えいが発生した1000tノッチタンクから3号機タービン建屋への移送ラインについては、信頼性向上を目的に耐圧ホースからポリエチレン管への付け替えを進めていたが、6/20に付け替えが終了したことから、6/25より1000tノッチタンクから3号機タービン建屋への水移送を再開する予定。なお、移送にあたっては、移送前のライン確認(移送元、移送先等)および移送開始後の各部の異常や漏えい等がないことを確認しながら行う。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

- 2015/3/16 1号機の原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体工事に向けて準備工事を開始。
 5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタ及びモニタリングポストのダスト濃度等に、有意な変動は確認されていない。
- 屋根パネル(計6枚)の取り外し作業を5/26頃から開始することとしていたが、原子炉建屋3階機器ハッチ開口部に設置したバルーン※が、所定の位置に設置されていないことが確認され、復旧に時間を要することから、屋根パネルの取り外し作業を延期する。なお、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等に有意な変動は確認されていない。
 ※建屋カバー解体作業に伴う放射性物質放出抑制対策として、開口部の面積を小さくすることで放射性物質の放出量を抑える(少なく)ことを目的に設置。

【海水配管トレンチ立坑閉塞充填作業状況】

【2号機】・2015/2/24～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。

5/27 立坑A、Dについて充填完了。

【3号機】・2015/5/2～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。

6/12～ 当該作業に伴う海水配管トレンチ内の滞留水については、塩分濃度等を考慮しつつタービン建屋へ排水しているが、タービン建屋滞留水の塩分濃度が上昇した場合、汚染水処理に影響を及ぼすことが考えられるため、一時貯留先として1号機復水貯蔵タンク(以下、「1号機CST」という。)へ滞留水の受け入れを行う。その事前準備として、受け入れ可能な容量を確保する目的で、1号機CSTに貯留されている汚染水を1号機廃棄物処理建屋へ移送を行う。

【4号機】・2015/4/15～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、開口部への閉塞材料の充填作業を実施中。

【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

・地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の当社および第三者機関による分析結果[採取日 6/13]は同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。6/24 10:10 より海洋への排水を実施していたが、同日 15:08 に排水を停止。なお、排水停止状態に異常がないことを確認。排水量は 1,229m³。

【構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて】

<K排水路排水口のサンプリング実績>

・6/23 15:50 に採取した水の分析結果(セシウム134、セシウム137、全ベータ値)が前日の分析結果よりも上昇しているが、降雨の影響により一時的に上昇したものであると推定。また、港湾口連続モニタの値に有意な変動が確認されていないことから、外洋への影響はないものと考えている。引き続き、監視を継続する。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上